

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
 【発行日】 平成 17 年 8 月 4 日 (2005.8.4)

【公開番号】 特開 2001-309905 (P2001-309905A)
 【公開日】 平成 13 年 11 月 6 日 (2001.11.6)
 【出願番号】 特願 2000-132237 (P2000-132237)
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 B 5/15
 A 6 1 B 5/145
 A 6 1 B 10/00

【F I】

A 6 1 B 5/14 3 0 0 D
 A 6 1 B 10/00 U
 A 6 1 B 5/14 3 0 0 G
 A 6 1 B 5/14 3 1 0

【手続補正書】
 【提出日】 平成 16 年 12 月 28 日 (2004.12.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 特許請求の範囲
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

穿刺針を備えるチップを装着して使用する成分測定装置であって、
 穿刺する指を当てがう指当て部と、
 前記指当て部に当てがわれた指を穿刺するよう前記穿刺針を作動させる穿刺手段と、
 前記穿刺針の収納空間とともに、前記穿刺針による指の穿刺部位を減圧状態にする減圧手段と、
 前記穿刺部位より採取された血液中の所定成分の量を測定する測定手段と、
 前記減圧手段による減圧状態を維持しつつ、前記チップを指から離間する方向に移動するチップ退避機構とを有することを特徴とする成分測定装置。

【請求項 2】

前記チップの移動は、前記チップを前記穿刺手段に装着した状態で、前記穿刺手段ごとに行なわれる請求項 1 に記載の成分測定装置。

【請求項 3】

前記減圧手段の作動により生じる減圧力を利用して、前記チップ退避機構が作動する請求項 1 または 2 に記載の成分測定装置。

【請求項 4】

前記チップ退避機構は、減圧室と、該減圧室と前記収納空間とを連通する空気の通過抵抗が大きい少なくとも 1 つの通路とを有し、
 前記通路を介して、前記減圧室を減圧することにより、前記チップを指から離間する方向に移動させる請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の成分測定装置。

【請求項 5】

前記チップ退避機構は、電氣的に駆動する駆動源を有し、該駆動源の駆動により前記チップ退避機構が作動する請求項 1 または 2 に記載の成分測定装置。

【請求項 6】

前記駆動源は、ソレノイドである請求項 5 に記載の成分測定装置。

【請求項 7】

前記チップ退避機構は、付勢手段を有し、前記チップ退避機構の作動を解除したとき、前記チップは、前記付勢手段により前記チップ退避機構作動前の位置に戻る請求項 1 ないし 6 のいずれかに記載の成分測定装置。

【請求項 8】

前記成分測定装置は、前記チップを保持し、前記穿刺手段を内蔵するハウジングを有し、
前記減圧手段は、前記ハウジング内の前記収納空間を減圧状態とする請求項 1 ないし 7 のいずれかに記載の成分測定装置。

【請求項 9】

前記穿刺手段の作動と前記減圧手段の作動とをほぼ同時に開始することができる請求項 1 ないし 8 のいずれかに記載の成分測定装置。

【請求項 10】

前記チップ退避機構による前記チップの移動距離を規定する移動距離規定手段を有する請求項 1 ないし 9 のいずれかに記載の成分測定装置。

【請求項 11】

前記チップは、指に当接する当接部を有し、該当接部の内側に形成される開口を指で塞ぐようにして使用される請求項 1 ないし 10 のいずれかに記載の成分測定装置。

【請求項 12】

前記指当て部は、指当て面を有し、
前記チップを前記成分測定装置に装着した状態で、前記当接部の先端は、前記指当て面とほぼ同じ位置か、もしくは、前記指当て面から若干突出している請求項 11 に記載の成分測定装置。

【請求項 13】

前記チップは、試験紙と、該試験紙に血液を供給する血液通路とを有する請求項 1 ないし 12 のいずれかに記載の成分測定装置。